

(別紙)

平成 29 年度第 3 回愛媛県地域公共交通再編協議会 議事録

日 時 平成 30 年 2 月 13 日 (火) 10:00~12:00

場 所 愛媛県庁第二別館 6 階大会議室

1 開会あいさつ

事 務 局：資料を確認させていただく。進行は会長が行うところですが、県議会の臨時議会の関係で急遽出席できなくなったことから、副会長の松村先生にお願いする。

松 村 副 会 長：本日は会長職の代理ということで、会議の取りまとめを行わせていただくので、よろしくお願ひしたい。

まず、本協議会は公開で行うことをご了承いただきたい。また、連日の寒波で、南予は大雪になっている中、お集まりいただきありがとうございます。

それでは早速、議事に入らせていただく。まず本日の主要な議題は、次第議事(1)の「愛媛県地域公共交通網形成計画(素案)について」となっている。皆様の意見をいただきたいと考えている。

前回11月の協議会后、事務局と各市町、事業者の皆様で計画に盛り込むべき事業等について議論を重ね、計画素案が取りまとめられたところですので、本日は、皆様より忌憚無き意見をいただければと思う。

では、事務局から網形成計画(素案)の説明をお願いする。

2 議 事

(1) 愛媛県地域公共交通網形成計画素案について

事 務 局：前回11月の協議会后、皆様に承認をいただいた計画目標、実施項目を踏まえ、計画に位置付ける個々の具体的事業を絞り込み、関係者間の合意を形成するため、市町、交通事業者の皆様と県で詳細な検討・協議を行わせていただいた。

本日、配布させていただいた網形成計画素案は、皆様との議論・合意内容を反映して策定をしていくものとなる。本計画素案は、バス交通を中心としているので、乗降調査を実施して詳細なデータ収集も実施し、本日委員の皆様にご協議いただくため、事務局で取りまとめさせていただいたものになる。

計画に位置付けた事業は、計画の目標・目的の実現のため、計画策定後5年間で実施を図っていくものとなっていくので、本日は、計画内容の全般について、皆様から意見をいただければと思う。

計画素案の詳細については、これより事務局担当者から説明させていただく。

事 務 局：(資料1、資料2にそって愛媛県地域公共交通網形成計画素案について説明)

松 村 副 会 長：地域公共交通網形成計画は、様々な主体に関連する内容となりますが、交通事業者にとっては、喫緊の課題となる。事業者の方から意見をいただきたい。

伊予鉄南予バス：今回の計画策定を通じて、各種調査を実施していただき、問題点、課題を整理いただいた。調査結果に基づいて、今後の方向性は確定してきたと考えている。各市町の皆様は、既にご存じのことと思うが、南予地域においては、少子高齢化が進んでいる。そのため、路線バスが時代にそぐわないものになりつつあり、路線バス以外のデマンドバス、コミュニティバス等が年々増加しつつある中で、各種交通モードの連携が必要となると考えている。今後の再編計画の方が、ハードルが高いと考えているが、計画目標を実現させていくためには、再編計画の早期策定と計画の実行が重要となってくるものと考えている。各種事業を実現するにあたっては、各市町の皆様にもご協力をいただければと考えている。

松村副会長：再編計画の策定と実行していくにあたって、これからが大事になるとの意見をいただいた。コミュニティバス、デマンドバス等を具体的に調整していくには、今後が大事になると私自身も同様に考えている。

宇和島自動車：今回の計画策定において、現状の課題については、的確にとらえられており、課題への対策案も検討していただいております、事業者単独では、検討できないような内容を各主体の意見を踏まえて盛り込まれていると考えている。バス利用者の減少は、人口減少と連動している状況であることに加え、バスの運転手の担い手が少なくなっている状況であることから、バス路線を維持する環境は非常に厳しくなっている。こうした状況を踏まえ、地方自治体のコミュニティバスへの移行や路線再編にあたっては、連携しつつ、路線維持を考えていきたいと考えている。

松村副会長：自治体の方からも意見をいただければと思う。

今治市：住民アンケートの結果を見ると、公共交通を利用しない方の言い訳が挙がっているように感じる。自家用車の利便性に負けており、公共交通は非常に厳しい状況となっている。インバウンド、サイクリスト、観光客の利用を取り込んでいくことが大事になってくるため、情報提供等にも力を入れていく必要がある。今治市では、地域公共交通網形成計画を策定する協議会を設置していくところである。大型商業施設やFC今治のホームスタジアムがある地域等を拠点としてうまく機能させていけないかと考えているところである。

こうした検討にあたっては、行政が主導した計画ではなく、住民主導の計画として策定していきたいところである。しかしながら、自治体には費用負担は課題となるため、何とか着地点をうまく模索していきたいと考えている。今回策定される県の計画に記載されている考え方である幹線、支線の役割分担は、今治市の方向性と同じであるため、今後も県の計画と連携していきたいと考えている。

松村副会長：公共交通の利用者代表の委員の方からも意見をいただければと思う。

横手委員：私の住んでいる東温市では、実施事業に挙げられているダイヤ、ルートの変更等を住民、事業者がワークショップを開催して検討した経緯がある。その中では、住民の意見を吸い上げて、きめ細かな意見が反映された運行に見直された。しかしながら、住民は、これまでの生活を変えることが難しかったようで、大変便利になったとの意見もあるなかで、3年間の試験運行では、車から公共交通に乗り換えるのは難しかったようで、利用者の増加は見られなかった。実施事業の中で記載されている「県民に対する公共交通を利用した外出の促進（モビリティ・マネジメント）」に当てはまるが、公共交通に乗る意味、守ることの大切さを伝えることが大事だと感じる。難しい言い

方ではなく、子供への啓発、自動車世代の親世代に対する環境面での大切さ、高齢者になった場合に大事になることを伝え、意識の変化を促すことが大事だと考えている。東温市では、山間地区においての再編に際しては、公共交通の利用者は真剣に考えるが、自動車利用者は、第三者のような立場であった。このような経験から、地域の全員が、路線に対して真剣に向き合うことが大事と考えている。

松村副会長：大切な視点をこれまでの体験を通じて意見を述べていただいた。

公共交通は贅沢品になりつつある。地域住民の方々は、公共交通が必要であれば、使わなければならない状況となっている。公共交通は、路線全体が黒字にならなくとも、使わないとなくなっていくことを認識していかなければならない。本計画の策定にあたり実施した各種調査によって、数値で説明できる根拠を得たことが、本計画策定の成果であると考えている。公共交通を存続させるには、一部の地域の方のみが、がんばるのではなく、地域全体で盛り上げていく必要があるのだろうと考えている。ここからは、一委員として、意見を述べさせて頂くと、これまでに様々な計画策定に係ってきたが、公共交通の計画は、SILVER BULLETを求めてきたのではないかと考えている。SILVER BULLETとは、狼男伝説において、狼男を倒す武器であるが、公共交通においては、どこかその必殺技のようなものを求めてきたように感じる。例えば、武蔵野市に「ムーバス」と呼ばれるバスが導入された頃は、コミュニティバスを走らせればいい。続いて、デマンドバスであれば、全て解決する。その次は、自動運転と、あたかも万能な解決策を示し、それらを導入することで全て解決するといった間違った見解を皆さんが持たれる状況が見られてきた。

こうした状況の中で、持続的な運行を実現させていくために策定される計画は、各主体が社会的なジレンマを抱える中で、みんなががんばろうという計画になりがちである。こうした計画では、一部の主体が抜け落ちていき、上手くいかないケースが見られる。最近では、ハレーションが起きているケースも見られる。先日、岡山県でこのような事例が見られた。対象地域の計画を見ると、内容自体には問題が無く、廃止になる路線についても、書き込まれていた。これらは、良い計画ではあるが、計画自体は意味を成さないわけではないが、計画を実行していくことが極めて大事なることを全員が認識し、実際に動いていくことが大事である。

今後、計画を策定していく各市町は、公共交通が持続可能となる計画を策定できるかどうかを考えていく必要がある。本日の協議会の結果を各市町において報告する際には、新たな公共交通が導入されるといった間違った考え方ではなく、持続可能な公共交通を実現していくことの重要性を伝えなければならない。5年後を見据えて、幹線、支線で分けていくことは、短期的に考えていく必要がある。路線を分割すると、その次に、交通手段を検討していくことになる。計画の実行を各市町が主体となって検討していくことを求めたい。また、県の計画を踏まえて、市町においても実践していただきたい。

様々な方が使う公共交通を利用する中で、社会的な意味があることを改めて認識していただきたい。新たな公共交通の導入のための計画ではなく、利用者のための公共交通計画を策定して頂きたい。その中で、モビリティ・マネジメントや専門的な知識を結集していくことも大事となる。

松村副会長：ご発言いただいた皆様、どうもありがとうございました。皆様、ただいま説明を受

けた「網形成計画素案」について、大きなご異議はなしということによろしいか。では、事務局は、本日の協議会意見を踏まえ、計画（案）の最終点検や修正・調整を適切に実施してほしい。

また、今後は、事務局の方で、年度末の最終承認に向けて必要な手続きを進めていくことと思うが、その間に必要となる素案内容の調整・修正は、本日ご承認の計画素案の趣旨に反しない範囲で事務局に任せたいと思うが、よろしいか。

ありがとうございました。では、議事（１）は以上とさせていただきます。

続いて、議事（２）「今後のスケジュールについて」に移る。

こちらについて、事務局の説明をお願いします。

（２） 今後の網計画関係スケジュールについて

事務局：（資料３にそって今後のスケジュールについて説明）

松村副会長：ただいまの内容について、何か質問、意見はありませんか。特に、意見ないようですので、四国運輸局から議事全般についての助言をお願いしたい。

四国運輸局：オブザーバーとして参加させていただいた。今後、パブリックコメントはあるものの、県全体の網形成計画として、素案が承認されたため、ひとつの区切りとなる。各主体が協力してきたことで、ここまで素案がまとめられてきていると考えている。これまでの事例では、区域、規模が大きくなればなるほど、大雑把な計画になってしまいが、本計画は、課題抽出から事業までしっかりとした根拠に基づいて計画が策定されていると感じている。

しかしながら、計画が策定された後に、いかに実行していくかが大事になる。

今後、再編実施が進められていく中で、再編実施事業に該当しない施策についても重要となる。例えば、観光対応の多言語化、共通乗車船券、低床車両の導入等の事業は重要と考えている。また、観光関係では、国の予算も確保できるため、運輸局、運輸支局としても積極的に支援したいと考えている。

人材確保については、非常に難しい問題であり、現時点で解決策が見出せないが、皆様に検討していただかなければならない課題であると考えている。

県全体の網形成計画は、素案が承認され、各市町は、今後計画策定や再編に向けて大変となるが、関係者一丸で取り組むとともに運輸支局としても支援していきたい。

来年度の予算につきまして、プレスを通じて通知するが、3月12日月曜日の午後高松市で説明会を実施する予定である。本省の担当官が予算説明をする予定である。有識者の香川高専の宮崎先生や会津若松市のコミュニティバスの成功事例等を講演していただく。運輸局では、市域を超えた生活圏の捉え方について、勉強会の結果を発表する予定である。

松村副会長：ありがとうございました。

情報提供いただいた場で活発な議論をしていただければと思う。

以上で、議事（２）を終了させていただきます。

（３） その他

松村副会長：最後は、次第の議事（３）「その他」ですが、何かありますか。

特にないようですので、本日の愛媛県地域公共交通網再編協議会の議事は以上で終了

とさせていただきます。

以上